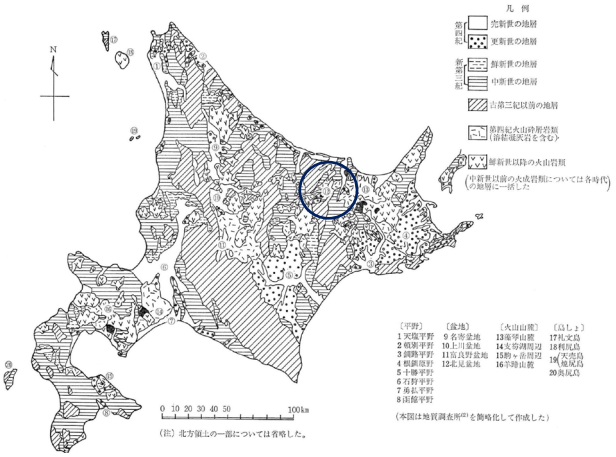
12.北見盆地



地形・地質

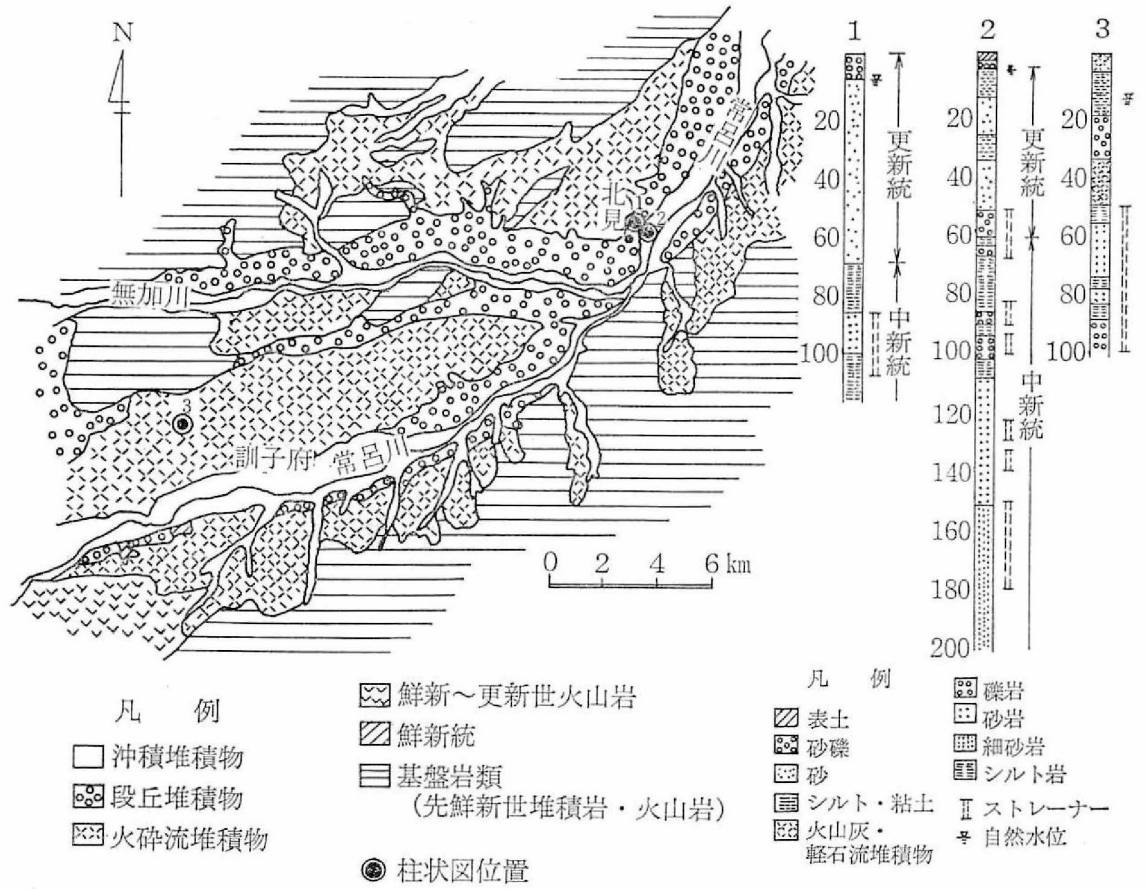
北見盆地は，無加川と常呂川に沿って南西ー北東方向に延びた細長い盆地で，断層運動により地溝状に陥没してできたものとされています。盆地内は段丘地形の発達が著しく，沖積地は無加川，常呂川などの河川沿いに分布するだけです。

北見地域の地層層序

時代		地層名
第四紀	完新世	現河床堆積物 崖錐堆積物
	更新世	河岸段丘堆積物 屈斜路火砕流堆積物 石英安山岩質火砕流堆積物
新第三紀	鮮新世	上仁頃層
	中新世	協和層 相内層 津別層
古第三紀		栄森層・陸別層
先第三紀		先第三紀層・先第三紀火成岩類

地下水

北見盆地およびその周辺で帯水層となり得るのは、中新世の相内層および、これより新しい地層で、最も有力な帯水層は、下部更新世と考えられる砂礫層です。北見盆地の地下水の水質は，一般に鉄の含有量が多いことが問題となっています。



北見盆地の地質図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）